

社会

出題の傾向

地理、歴史、公民の3分野から総合的に出題しています。形式的には各分野別に大きな問題を設定しているように見えますが、各分野を総合的な面から出題しており、かたよった学習や単なる知識の断片の暗記に終わらず、総合社会として学習しているかどうかを出題しています。ただし、出題する内容は必須事項ですので、教科書や資料集で基本事項を丁寧に整理し、そして総合的に内容を理解し、さらに正確に表現できるまでの受験準備を心がけて下さい。

2016 今年度の出題と解説

今年度の入学考査は、上記の3分野を①地理、②歴史、③公民の順で出題しました。その出題形式は昨年度と比べて大きな変化はなく、問い方や考え方はできるだけ同じ形式で出題するようにしました。ただ、地理分野の表の読み取りで苦勞する受験生もいたようですが、過去の入試問題で反復学習した受験生も多かったのか、意外と正答率は高かったようです。今年度の問題傾向と誤答例について、気づいた点を下記に分野別で示しておきます。

①地理分野

出題傾向としてはここ数年とほぼ同じでしたが、今年度は、題材としてまず日本地理を扱い、そこから世界地理に問題を広げていく内容でした。今年度のように日本地理からたずねていく場合、また、年によっては世界地理を用いて出題していく場合がありますが、いわゆる切り込み方の違いだけで、出題は両方の分野におよんでいますので、表面的な違いに戸惑うことなく、落ち着いて問題に対応してほしいものです。今年度の場合、11の都道府県の地理的な資料（農牧林水産業など）から、地図と各都道府県の説明文（各都道府県の工業の様子）との組み合わせをたずねていくという内容が中心でした。この表自体を見たことはなくても、まず説明文を読んで6つの都道府県を導き、地図を見てその都道府県を結びつけた後、表中にのせられている各都道府県の特徴の中からヒントになる項目に注意し、その項目の数値に近いものより、空欄の都道府県を特定するという手順で解答していく手法が有効です。今後も、1つのテーマ〔農牧業・資源（林水産・エネルギー・鉱物）・工業製品など〕について、教科書で学んだ基本事項を地図や地図帳の表・資料と照らし合わせて総合的にまとめていく学習法が有効です。正答率の低かった問題は、問1、Aの問題文中の“工業は南北格差が著しく、北部において〈中略〉工業が発達している。これに対し、南部においては〈中略〉工業化は十分に進展していない。”よりイタリアを答える問題に対し、同じく問題文中の“北部において、〈中略〉内陸部では古くから行われている繊維工業の他、自動車工業が盛んに行われており〈中略〉南部においては、鉄鋼業などが行われている”より、内陸のり

ヨンの繊維工業、パリの自動車工業、南部のフォスの鉄鋼業が行われているフランスと勘違いした誤答が目立ちました。先ほども述べましたが日本地理のみならず、世界地理も学習しておきましょう。

②歴史分野

今年度は、古代から現代の歴史までをA～Iの各文で幅広く出題しました。問われた内容はほとんどが歴史上の人物や歴史上重要な用語であり、全般的にはよく出来ていましたが、記述問題の誤りや漢字間違いが目立ちました。漢字の誤りでは、問1（1）の卑弥呼が正確にかけていない受験生が目立ちました。記述問題では同じく問1（4）の源頼朝に対し源義経、（5）の足利義政に対し足利義満、（6）の株仲間に対する座などはその例です。また問題のほとんどが日本史の内容ですが、問6、問7の世界の歴史と日本の歴史の時代把握の問題などはよく出題しています。これらの点から日本史・世界史の各時代の内容整理（政治史・文化史ともに）とともに、学習し理解した内容を、必ず漢字で正確に表現できるよう日頃から心がけて学習しましょう。

③公民分野

今年度は、例年同様、近年の国内情勢に関する新聞の社説からのリード文を使って出題しました。全般的にはよく出来ていましたが、歴史同様、記述問題の誤りが目立ちました。問4の男女雇用参画社会基本法に対して男女雇用機会均等法はその例です。日本国憲法の三大原則や国民の三大義務はもとより、今後重要となってくるであろう社会保障及び国際組織の他、例年よく尋ねている時事的な問題についても基本的な事項をしっかりと押さえておく必要があります。また、今年度の出題はありませんでしたが、経済・金融分野の問題もよく問われます。このような問題に対応するためには、近年の国内、国際面でのニュースに常に関心を示し、教科書に卡えて基本事項を理解し自らの力として結果を正確に表現・選択できるという学習習慣を心がけましょう。

対策とアドバイス

「基本」は決して簡単というわけではありません。単なる暗記で対応できる問題だけではなく、理解をしているかどうか重点をおいた出題を常に考えています。そのためにも、特に最近の出来事にも関心を持ち、日頃から新聞の記事などにも興味を示しておくことが重要です。そして、教科書等で基本事項をしっかりと整理し理解を深めた上で、さらに、教科書にのっている歴史的な作品や図・資料、また地理に関する統計・グラフ等もチェックして、関連づけておけば、入試において必ずよい結果が出るでしょう。